

2019年3月1日

第127回卒業礼拝奨励

静岡英和女学院中学校・高等学校

校長 吉田 幸一



一雨ごとに春の訪れを感じる今日この頃となりました。

本日、第127回の卒業礼拝の時を迎えることができますことを神様に感謝いたします。

また、卒業生64名と保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。静岡英和女学院高等学校のご卒業誠におめでとうございます。

静岡英和女学院中学校・高等学校で学んだ6年間あるいは高等学校の3年間を思い起こす時、さまざまな思い出が脳裏をよぎるのではないのでしょうか。純白のカラーとカフスのある真新しい制服に身を包み、保護者の方とこの礼拝堂に入室した時、学年色の緑のプラカードを掲げ、緑 緑の大声援と

喝采の中で、チームワークを発揮した体育祭、緊張と感動の入り混じったカナダ・スタディツアー、友だちの発表や演技に見入った文化祭、イエス様のご生誕を生徒全員が厳かにそして清らかに祝福した学校クリスマス礼拝などの思い出には、思わず胸が熱くなるのではないのでしょうか。とりわけ体育祭やダンスには関心が高く、学年の団結力とチームワークを表現する時の、円陣を組んで「頑張るぞー」と気持ちを高ぶらせたことは強く記憶に残っていることでしょう。

学年色の緑は、クリスマスカラーの赤・緑・白・金の一つでもあります。赤はイエス・キリストが十字架にかけられ、流された血の色を表し、緑は、常緑樹エバーグリーンの緑で永遠の命や永遠の愛を、白は純潔を表し、金はイエス・キリストの誕生時に東の空に輝いていた「ベツレヘムの星」の輝き・高貴さを表しているといわれています。緑を学年色とする64名の卒業生は、神様から永遠のいのちと愛を授かった学年といえます。

保護者の皆様の前に座る64名の卒業生は、6年前あるいは3年前に比べて、立派に成長し、その姿はまぶしいばかり

の輝きがあります。この輝きは、いつも温かい愛情を注いでくださった保護者の皆様への感謝の輝きにほかなりません。保護者の皆様のにっこりとうなずく姿と手を振ってくれることがあるからこそ安心し、健やかに成長し、あの優しい笑顔のお陰で、子どもたちは日光のように明るくなるのです。また、緑の学年の杉山先生、石岡先生、安田先生、伊藤栄紀先生と多くの先生方の指導や励ましによっても今日を迎えることができました。お世話になった方々への“ありがとう”の一言を忘れずにいてほしいと思います。

さて、静岡英和女学院は開校132年を迎えますが、地球の誕生から考えてみると、この132年間でどのぐらいの時間に当てはまるのかを考えてみましょう。地球の誕生は今から46億年前に遡ります。その日を1月1日の元日に当てはめると、今生きている私たちは暦で言えばいつごろになるのか簡単に記してみます。

1月 1日	地球の誕生
12月25日	恐竜全盛期
12月26日	生物の大量絶滅

1 2 月 2 7 日

哺乳類の繁栄

1 2 月 3 1 日 午前 1 0 時 4 0 分

最初の猿人トウマイ猿人登場  
(700万年前)

午後 7 時 2 6 分

原人ホモ・ハビルス石器を活用  
(240万年前)

午後 1 1 時 3 分

ネアンデルタール人登場  
(50万年前)

午後 1 1 時 5 9 分 4 6 秒 イエス・キリスト降誕

午後 1 1 時 5 9 分 5 8 秒 産業革命

午後 1 1 日 5 9 分 5 9 秒 20世紀の始まりと終わり

イエス・キリストがお生まれになってから2000年以上が経過し、現在までを地球誕生の暦から考えてみると、12月31日午後11時59分46秒から59秒までわずか13秒のほんのわずかな時間の出来事であることが理解できます。静岡英和女学院が建学されてから今年で132年ですから、なるほどこちらも人の眼のまたたきよりさらに短いほんの一瞬となります。

たとえ地球有史以来の一瞬の出来事であっても、静岡英和女学院の建学の精神と校風は脈々と受け継がれています。知

恵の源である神様の御心によって建てられた静岡英和女学院は、栄えあれ永久にと校歌にもあるように、この地球が存在する限り、永遠に存在することを神様から約束されています。

「歴史は現在と過去との対話である。」と述べたのはイギリスの歴史家 E. H. Carr の著書『歴史とは何か? What is history?』で繰り返された言葉であります。歴史における因果関係を解明し、歴史は科学であるとのことから現代歴史学の立場をとりました。ことほど左様に、生まれてから今日までの私たちの歴史は、自分自身の生き方や人生態度あるいは環境から構成され、一定の法則の中からつくられていることが分かると思います。感受性豊かな青春期に、キリスト教主義の学校で学んだことも、人間形成の骨組みの一つになったことでしょう。

64通りの名前があるように、個性や性格あるいは発揮できる才能の分野も各々異なります。神様は、私たちにいのちをお与えくださり、一人ひとりに豊かな才能をお与えくださいました。この御恵みに感謝し、自分自身の存在価値は何なの

かをさらに探求してほしいと思います。存在価値すなわちレゾン・デートルは英語では reason to be 「であることとは何であるのか」。イザヤ書によれば「わたしの目には、あなたは価高く、貴く わたしはあなたを愛す」とあるように、神様から一人ひとりの尊きいのちを与えられた「その人であること」、神様が私たちの存在 (being) を愛し、私たちを自分の子どもとして愛してくださる。ここに私たちの存在価値の礎があります。

青年期に形成された個性に、聖書の御言葉を重ねながら、世の光となって、“student の生徒” から “saint の聖徒” として社会の光となってほしいと思います。

たとえ社会の荒波や厳しい寒さに直面したとしても、神様は乗り越えられない試練を決して人にお与えになりません。心に聖書を、くちびるには讚美歌を携え、いつも微笑を絶やさず、神様からの恵沢に浴する未来に向けて、愛と奉仕の精神を、家族へ、隣人へ、社会へ、そして世界への光となるよう役立ててください。

これからは、卒業生の一人として、長い歴史をとおして培

った校風を引き継いでいく“英和ミッショナリー”としての役割を担い、“英和ファミリー”として静岡のみならず世界を舞台に活躍してくれるものと期待しています。

最後に、E I W Aの頭文字に建学の精神とこれからの夢と希望を織り交ぜた言葉として在校中よく耳にしたことでしょう。これからの卒業生の皆さんにとっての道しるべとなってくれることを期待して、それではご一緒に、EiwaのEはElegance、IはIntelligence、WはWisdom、そしてAはAbility。これらの言葉を忘れず、これからの卒業生の皆様のご活躍を心より祈念しています。

人生から何を期待できるのかが問題ではなく、人生が私たちに何を期待しているのかが問題です。人生はそれ自体に意味があるのですから。

For every two steps forward, it often feels we take one step back. But the sweep of our school has been defined by forward motion, a constant widening of our founding creed to embrace all, and not just some.

I am asking you to believe. Not in my ability to bring

about change-but in yours. You made me a better principal  
and you made me a better man.

God bless you. And may God continue to bless our school.

Thank you.

はるかなる 望みを胸に つどい来し 我ら若人  
いつしかも 学びを終えて あるがじし 世に出ずるかな  
お祈り致します。本日ここに第 127 回の卒業礼拝を行うこ  
とが出来ましたことを神様に感謝いたします。卒業生に言祝  
ぎをもって送るとともに、保護者の皆様のご労苦に思いを馳  
せる時、思わず胸が熱くなるのを覚えます。学び舎を巣立つ  
64 名の女性たちの祝いの時を神様の御名とともに賛美いた  
します。卒業生 64 名の今後の人生の歩みを片時も離れるこ  
となく御守りください。神様の御恵みがとこしえに与えられ  
ますようお願いいたします。父と子と聖霊の祝福が皆さんの上  
にいつも豊かにありますように。

この祈りを主イエス・キリストの御名により、御前に御捧  
げ致します。

アーメン